

双月刊行有料宅配誌／編集兼発行人・中村公彦

# 蒼蒼

第94号

2000年8月10日 発行  
宅配料2年12号1000円  
(小額郵便切手可)

株式会社蒼蒼社／東京都町田市森野2-26-16

## 揺籠から墓場まで「単位」のなかで生活する中国人

辻 誠

(前住建日商上海有限公司総経理)

・Y・O・W・'・S・O・S・H・A  
海の職場人間学 ある日系企業経営フアイルから』の 第三章 人民を縛る三種の神器 「戸籍」「档案」「単位」制度 からの抜粋である。紙幅の都合で、ここでは三

つの制度のうち、「戸籍」「档案」は割愛して最後の「単位」制度しか収録することが出来ない。

著者の辻誠氏は、一九六五年東京外大中国語科卒業、一九七二～九五年日商岩井勤務、一九九五～九八年住建日商上海有限公司総経理を務められた。

本書は現在執筆中であり、本稿も未定稿であるが、年内に刊行できる予定である。独資企業の経営ファイルに映し出された上海人の職場における人間模様を克明に描いており、従来、外国人に知られることのないかた中国の生活の深層をえぐりだしている。御予約を歓迎する。(年内刊行、予価二七〇〇円)

\* 共産党が人々の個人生活の端々まで管理する「単位」という組織

中国では個人はすべて何らかの末端組織に所属していなければならず、また所属していなければ社会生活を円満に行うことができない。末端組織とは、学校、企業、団体、機関、軍などのことで、これらを中国

では「単位」と呼ぶ。単位には共産党の組織がおかれており、そのトップは共産党の書記である。

農村では単位はない。ということになっているが、実質的には村や鎮(町)が末端組織で単位になっている。都会でも家庭の主婦や定年退職者などは、居住区ごとの隣組組織が単位社会になっていて、この単位は「街道」と呼ばれる。

単位には、通常、共産党組織以外に青年団や婦人会が置かれている。軍隊や街道以外では工会(労働組合)も単位毎に置かれている。

単位制度は中国独特のもので、共産党が人々の政治、経済、社会面はむろんの個人生活面までも管理する細胞組織である。単位の最高責任者の党書記は強大な権力を持っており、国有企業においては、社長や工場長より党書記の方が偉いと言われる。

単位に所属する者にとって、単位は生活共同体であり、生活の手段でもある。所得、年金、医療、住宅、買い物、娯楽、教育な

どすべての事柄が、単位内部で満たされる。改革・開放政策実施以前の、計画経済時代の都市の大有企業においては、単位の中で揺り籠から墓場まで生活が保証されていた。

外資企業にも期待されている単位の三つの機能

単位の機能を少し詳しく見てみよう。

政治的機能 旅行あるいは色々な用件でほかの単位に接触する場合、所属単位の紹介状が必要である。このとき単位は所属者の身元を証明する。外資一〇〇%出資のわが社でも、相手側の単位、例えば電話局などと折衝する際に紹介状を求められ、会社名で紹介状を発行したことがしばしばある。また、選挙では投票を単位毎に行うことになっており、われわれの工場も選挙の単位になった。

経済的機能 農村や街道を除き、単位は所属者に対し給与、賞与、手当などを支給している。その支給のために勤務配属先、勤務評定、金額の決定などを単位が行

う。

単位に対する帰属意識を強め、労働に対するインセンティブを喚起するうえで最大の給付は住宅である。国有単位の場合は、改革・開放前までは、単位が家族構成なども考慮し住宅を配分していた。配分された住宅は、所有権は単位にあるが、ほぼ自分の物同然に一生涯使えるばかりが、子供に相続して使わせることもできる。外資企業においては、職員との雇用関係は契約であり、契約期間もあまり長くないため（最近では長いものも出てきているが）、住宅を支給することはまだ一般的ではない。

給与が相対的に低い国有企業にステイックする者の最大の理由は、単位からの住宅配分である。従来は国有単位は、この住宅制度によって所属者を単位に縛り付けることができた。もっとも国有単位も最近住宅を配分する経済的余力がなくなり、社会的にも不合理だとのことで、いずれはなくなるであろう。

一時期、中国人の間で、「一家兩制」が理想的な豊かな家庭だと言われていた。「一家

兩制」とは夫婦の一方が国有の単位に、もう一方が外資系企業に勤め、両方のメリットを享受することである。給料は外資系で、住宅は国有単位でもらう。しかし、この一家兩制という言葉もやがて死語になるであろう。

社会的機能 単位が所属者に果たす最大の機能は社会的機能である。年金などの社会保障、冠婚葬祭、一人っ子政策の執行などである。中国の労働法令は、ある意味では日本より手厚い有給休暇を決めており、それらの実施は単位に任されている。法令であるため、外資企業にも順守が求められる。

中国人の職員労働者は、無意識の内に、以上三つの機能を外資系企業も果たすことを望んでいると思つたほうがよい。中国人は外資企業に就職した場合、単位がその外資企業に変わったとの意識が強いからである。

結婚も単位の承認がいる

中国人職員の採用の時、及び採用してから、外資企業が国有単位並みに果たす社会的

な機能について、わが社における経験の中から印象に残ったことを幾つか紹介してみよう。

ある日、総務人事の責任者が、工場の女子ワーカーを連れてやってきて、一通の書類を差し出した。ここに社印を押して、総経理の署名をして欲しいと言う。

書類の自身は、本人が未婚であることを証明し、あわせて会社が本人の結婚を承認するという趣旨のものである。私は、採用時に本人申告の身上書は見ているが、その真偽を調べたわけではない。また、会社に来て以降の状況も知らない。彼女の「档案」も見ることが禁止されている。そもそも、このワーカーが未婚であるのか、既婚であるのかを証明する立場にはない。

そこで、「結婚するのは、個人的なことで会社が未婚であることを証明したり、結婚に同意したりすることはできない」と言ってみた。すると、本人はびっくり。付き添いの総務責任者は、「これにサインしないとこの子は結婚できない。とにかくサインがほしい」と口添えする。

郷に入っては郷に従えである。仕方ない。サインし、「コメントを書く欄に、「結婚に同意する」と記入した。

このことがあってから調べてみると、今まで知らなかった以下のようなことが分かってきた。

中国では法定結婚年齢は、男満二二歳、女満二〇歳で、日本より高齢である。

結婚の登記は、上海では区の民生局でする。

登記には結婚する本人二人が作成する「結婚登記申請書」のほかに、所属単位が発行する「本人は未婚であり、結婚に同意する」という「婚姻状況証明書」、指定された病院発行の「婚前身体検査証明」が必要である。「婚前身体検査」は、心身障害、精神病、ハンセン病、性病などについて行われ、いずれかの病にかかっていると合格しない。これらの書類を提出し、審査を受けてパスすると、はじめて「結婚証」が交付され結婚が成立する。

結婚証は夫婦それぞれに一枚支給される。社員の冗談まじりの話によれば、中国

では夫婦喧嘩をしたときに、どちらかがこの結婚証を相手の目の前で破いてしまうことが多いのだそうである。そして、喧嘩が収まり仲直りすると、また民生局に出かけ、結婚証を再発行してもらう。民生局もその辺をよく知っていて、何度も再発行を依頼しに来るカップルは良く覚えていて、ゴタゴタ言わないとか。

計画出産のために会社が墮胎費用を負担し、有給休暇をとらせる

出産においても、単位毎に計画出産委員会が設立され、出産年齢の女性に対して管理を行っている。さすがに外資企業を、国有単位並みに扱って、会社の中に計画出産委員会を作っているケースは聞いたことがないが、そのかわり、外資企業に所属する者については、「街道」が単位の機能を負っている。

中国が一人っ子政策をとっているのは周知のことであるが、その実施については私は、なんととはなしに、結婚して最初の子供ができたなら、二番目からは生まれないうように措

置をする、そうした者に対して色々な優遇措置が講じられるのだ、と思ひ込んでいた。ところが、現実はそのようなものではない。

結婚したばかりの秘書が、ある日、「休暇を下さい」と言つて来た。理由を聞くと、「子供ができたので墮しにいく」とのことである。「最初の子供をおろすのは母体に悪影響を与える。できれば最初の子は生んだ方がいい」と私は、お節介を焼いた。

すると、「割り当てが取れなかったので、生みたいが生めない」と言つ。私は、訳が分からず、きよとんとするばかりであった。これをきっかけに調べてみると、以下のような仕組みが分かった。

国は一九九一年から一〇年間の人口平均増加率を一・二五%以内に抑えるように決定した。この増加率を前提にして、各末端政府はそこに住む出産年齢の女性数を勘案して、年間出産許可数を設定する。この年間出産許可枠の範囲内で、出産計画申請のあった者の中から今年は何と誰、来年は何と誰と、出産する権利を割り当て、その割り当てを受けた女性だけが出産できる。計

画し、問題なければ会社が本人に支払う。日本では子供を墮す行為は、優れて個人的なものであり、一般的には健康保険は利かないものと思われ。それが頭にあったので、一瞬、「墮胎費用が会社持ちとは！」と反応したが、当人はしごく当たり前の顔をしている。

私の秘書は、このシステムに疎かったのか、申請したが割り当てが来なかったのか、いずれにせよ出産できず、やむをえず、墮すことにしたらしい。彼女は、この墮胎のためにかかった病院で、輸血からくる黄疸にかかったが、その後二年たつて、ようやく無事子どもを生むことができた。子供の写真を大事そうに私に見せてくれたものである。

もう一つのケース。すでに一人子供がいるのに、ミスして子供ができた既婚女性がいた。ある日、彼女はその処置にかかった病院の費用の領収書を持ってきて、「会社で負担して欲しい」と要求した。

中国では健康保険制度がないので、社員が病気になるれば、会社の常駐の医者にまずかかる。そこでの常備薬では手に負えないときは、その医者の紹介状で指定病院にかかり、費用は会社の医者が領収書をチェッ

クし、問題なければ会社が本人に支払う。日本では子供を墮す行為は、優れて個人的なものであり、一般的には健康保険は利かないものと思われ。それが頭にあったので、一瞬、「墮胎費用が会社持ちとは！」と反応したが、当人はしごく当たり前の顔をしている。

中国の労働法令では、こうした場合、費用は会社持ちで、有給休暇を与える。ちなみに有給休暇についての労働法の規定は以下のとおりである。

本人男二五、女二三歳未満の時の結婚  
配偶者の結婚 父母、配偶者、子女の葬儀  
……これらについては三日。

子女の結婚 祖父母兄弟姉妹の葬儀  
……これらについては一日。

本人男二五、女二三歳以上の時の結婚  
……これらについては一日。

通常出産……産前一五日、産後七五日  
晩婚者の出産は追加一五日 難産または多生児は同上

避妊手術を行った時は翌月から一年間  
毎月一日 人工流産を行った時一四日。

かなり手厚い処遇であり、人口政策の重要度を示していると思われる。

余談だが、最近では、女性は経済的に、男子と比べ相対的に費用がかかると言ったことで、就職で不利になっていると聞く。社会主義中国にあって、女子に対する優遇規定が、先行きどのようになっていくか、人口政策の行方とともに注目されるところである。

法律で、風呂理髪手当や一人っ子手当が規定されている。

外資系企業で中国人社員を雇用して最初にあぶつかる問題は、給与体系をどう作るかである。

採用の時に、「幾らの給与をもらえるか」と聞かれる。何らかの考えがなければ回答も出せない。恣意的に高すぎる回答をするわけにも行かない。低すぎても良い人材は採れない。

そこで、日本の会社の給与体系、また中国での企業経営のハウトゥ本に載っている給与体系、また、中国の国有企業の給与とテールなどをもとに、自分の企業に則した給

与体系を作る必要に迫られる。

まず国有企業の給与体系を理解し、市場経済になった現在それがどのように変化しているかの認識が大切と思う。国有企業の給与とテールを見ると、基本給では、農民戸籍の者と都市戸籍の者で違う。手当での中では、風呂理髪手当や一人っ子手当が計上されている。

わが社では、理屈に合わないと思われる手当については、それぞれ計算をしてその合計の五割増しを補助手当としてくり支給することにした。しかし、社員からは風呂理髪手当や一人っ子手当を支給してほしいと言つ声絶えない。なんと説明しても分かってくれない。結局、法令で決まっている手当を支給していいと言われるのはまずいと判断して、風呂理髪手当と一人っ子手当を新たに支給増した。

一人っ子手当については、当初、中国人社員の給与担当者は一〇元ぐらいにしたいと言つ。額は大了なものではないのでそれでスタートした。ところが、しばらくすると、五元に引き下げたい、理由は上海で

はそのように決まっているからだ、減らした五元は補助手当に上乗せして減らないようにしたいと言つ。この提案は、どちらにせよ大したことではないから、言うようにしたが、一体全体、一人っ子政策では、どのように規定されているのか？

一人っ子政策は一九七九年に始まった。上海では一夫婦が一子を設けた後、避妊手術をするか、第二子を作らないと宣言した場合（通常は第一子が四歳になった後宣言）、一人っ子証をもらい、子供が十六歳になるまで、一人っ子手当をもらえる。「一人っ子証」を持つ者に与えられる一人っ子手当では、規定では毎月五元である。この額は、一九八一年以降の額で、七九年規定ができた頃は四元であった。四元といつても、その後のハイパーインフレ時代の前で、月給が平均約五四元の時代であったから、価値があった。市場経済の時代では、一般に月給は四〇〇～五〇〇元程度で、外資系の企業ホワイトカラーなら一〇〇〇元、二〇〇〇元、さらには一万元近くになるものもある。五元の手当ではネグジリ

ブルになっている。だが、給与体系の中には法規定というところで項目として入れなければ何かとうるさいことになる。

一人っ子政策と言っても、人口稠密な都市と、過疎の地方、また少数民族地区など各地の実情は異なる。したがって、地方毎に「計画出産条例」が作られており微妙に違う点があるようで、上海のケースですべてを押し量れない。しかし、中央の良い子である上海のケースが最も中央の指示に沿っているものと言えよう。なお、上海では、第二子出産の条件や、夫婦共稼ぎの現状から、一人っ子手当ての負担者や、与えられる優遇策などが細かく決められている。

企業が選挙の単位となり、献血の枠を課される

中国人社員が国の活動に参加する時には、単位は有給休暇を与えなければならぬ。選挙、植樹運動、献血運動などがこれにあたる。また、徴兵された者へは、単位が給与を支給しなければならない。

選挙は、所属単位毎に行われ、外資企業

でも同じである。上海では、事務所ビルに入っている独資企業に直接雇用された者は、人数が多ければそれなりに国有単位と同じように、会社毎に選挙に参加することができ。しかし、一〇人、二〇人のスモールオフィスでは、どのように選挙に参加すれば良いのか分からない。

わが社の事務所職員が投票の仕方を聞いてきた。私は、会社の工場で選挙に参加したかどうかと答えた。職場が事務所と工場では、所在の区も異なるので、何か割り切れない。私も、工場で投票すればと言ったが、選挙人名簿とか、投票用紙とかのことは分からない。結局、わが社の職員は投票をギブアップすることになった。

ある日、「鎮」の献血担当の副鎮長という者が工場に現れ、五人ばかり献血者を工場から出してほしいと要望してきた。献血は、日本ではあくまで自発的な希望者に限られる。ところが、中国では役所から強制的に献血者数を割り振ってくる。わが社には、献血を強制する根拠はないはずである。そこで、献血を希望するものを募り、希望者

が出れば、出ただけ業務時間中に、献血にやるから、と答えたが、どうも、それでは済まないようで、工場の庶務担当は地元政府と総経理（私）の間に入って困り切った。揚げ句の果てに、鎮政府の担当は好意から、工場で五人どうしても出せないなら、どこかで買血してきてつじつまを合わせるから買入の費用を出してほしい」と手際よく領収書まで持ち込んできた。これはすぐ断ったが、理屈は理屈で、地元政府と角突き合わせたままではろくなことはない。工場の中国人の生産ラインの責任者を呼んで、ライン毎に一人、説得で献血希望者を出すよう指示した。そして、献血した者には、一週間の有給休暇と約半月分給与相当の栄養手当てを出すことにした。

こうして、五人の献血候補者が出てきた。しかし、献血にアポイントされたうちの一人が、その翌日、「血を採られるくらいなら会社をやめる」と言って来て、本当にやめてしまったのには驚いた。

中国の献血は一年一回、その量が市毎に決められ、その量を、人口数や企業数に応

じ、区毎に決め、区はその下の鎮や町毎に割り振っていく。出産増加率達成目標のため、出産数を行政単位毎に割り振っていくのと全くおなじ手法である。一回一人の献血量は二百ccで、日本の半分であり、献血で労働できなくなるといふものではない。しかし、計画達成が先にあり、献血の意義や人体への影響などを啓蒙しないので、迷信深い農村地区では魂を抜かれるのと同じと考える者も出る。それが、献血するぐらいなら会社を辞めるといふ行動につながるのである。

「以下、「徴兵と帰省休暇の負担」割愛」

退職金の在職年数のカウントの仕方

中国では幹部、労働者は、国有単位に就職した時から勤続年数のカウントが始まる。全中国の国有企業は、中国会社の支店のよくなもので、単位を移ることがあっても退職し、新たに就職したことになる。「档案」は移動によって新たな単位に移されるが、国有単位から、別の国有単位に移っても、勤続年数は継続される。

例えば、首都鋼鉄公司から宝山製鉄所に職場を変えた場合は、ともに国有単位なので、移動転職者は、新日鉄の九州事業所から君津事業所へ変わったのと同じように扱われ、もちろん退職金をもらうこともなく、勤続年数も継続される。

しかし、改革開放政策により、外資企業が設立され、国有の単位から外資企業に移るケースが現れた。国有単位を離れることは、行き先が外資系企業であれば、当然、退職である。しかし、今まで単位は国有だけであったので、現在の国有単位を離れることは退職であるとの意識がない者もいる。そして外資企業に移って長年たつて退職する際、勤続年数を当初の国有単位で仕事を始めたときから、通算で勘定してくれという者も現れる始末となる。

外資系企業としては、自分の所に来たときから勤続年数を数え始めるのが常識であるが、雇用開始の時、この勤続年数のことをはっきり当人に言わないと、退社に当たり、トラブルになることも多い。外資系企業が国有単位から人を雇用する時は、とく

にこの勤続年数について、留意したほうがよい。

すっかりした国有単位から離れ、外資系の企業に入社するとき、退職であることをはっきり意識している者は退職金を要求し、それをもらってから、国有単位を離れる。わが社では、木材公司から人を雇用したさい、当人は退職金を要求したが、木材公司の方はすっかり支払わずトラブった。退職金について調べたところ、勤続年数に同じ一年につき給与一カ月分の退職一時金というのが規定であった。木材公司は最後にはこの規定どおり支払ったが、払いを渋っていたのは事実である。支払いを渋った理由として、国有企業が経営不振で、金がないことである。ない袖はふれないと、退職する者が、退職金規定に疎く要求しないのにつけり、これ幸いと頬かぶりするところもある。そうすると、当人としては外資企業を退職する時に、勤続年数を継続してカウントしてほしいと言つ要求をこく自然にだしてくると思われる。

## 国民総背番号制「居民身份证」の仕組み

改革・開放政策の実施によって、共產党の国民管理の手段である、戸籍制度、檔案制度、単位制度だけでは律し切れなくなる事態も出てきている。たとえば、奥地の住民が沿岸の経済開発区などに大規模に出稼ぎする現象が発生している。戸籍は一家単位で、記載されており、個人単位ではない。そこで、一家内の一人が出稼ぎで家を離れた時は、身分を証明するものが何もない。

一九八六年に公安部は、国民総背番号制とも言える制度を発足させ、個人別の番号を記した「居民身份证」を持たせるようになった。この身分証は、名刺大のカード様のものでビニールカバーで密封されている。上半身の写真を付し、氏名、性別、民族、生年月日、現住所、発行日、有効期限、背番号が記載されている。有効期限は三種類で、満年齢で一六から二五歳は一〇年、二六から四五歳は二〇年、四六歳以上は長期有効となっている。

背番号は、一五桁で構成されており、戸籍のある場所、生年月日、性別などが分か

るようになっていく。

例えば、三二〇一〇九五〇一一二九一六の背番号を持つ者は

最初の三桁、三二〇は戸籍のある場所、つまり上海を示している。北京ならば一〇である。

七桁目の五から最後より四番目の九までの六数字、五〇一一二九は、生年月日を示す。この番号の者は、五〇年一月二十九日を生れを示している。

最後の数字三は、性別を示し、奇数は男子、偶数は女子を示しているので、この場合は男である。

以上の戸籍所在地、生年月日、性別を示す数字以外に、まだ、一〇九、一六の数字が入っている。何か意味があると思われるが、私には意味するところが、残念ながらまだ分からない。

企業で人を雇用する場合は、戸籍がどこにあるかが大切である。われわれは、この身分証のコピーを履歴書と共に付けさせてチェックしていた。履歴書の氏名や生年月日と身分証の記載と違う者も珍しくなく、

身分証をもとに履歴書の項目を直すことも多かった。

この身分証は常時携帯を義務づけられているせいか、外出や出張中にスリにあつて紛失することが非常に多い。出張中にあつて紛失し、帰る際、切符購入のときに提示を求められて困つたと言つ話を何回も聞かされた。紛失すれば、再発行を申請するわけであるが、それには一カ月以上かかるらしい。

身分証は至る所で提示を求められ、書類などには背番号を記載するようになっていく。例えば、選挙民登録、戸籍登記、兵役登記、結婚登記、入学就職、パスポート取得、運転免許証、個人営業許可証、社会保険への加入、汽車飛行機などの切符購入、ホテル投宿の登録、為替郵便物の受領、銀行口座開設などなどである。この背番号は、まだ養老年金や公積金（住宅積立金）の番号とは共通になっていないが、いずれこれらの番号や医療保険証の番号などとリンクするようになるであろう。



中国的なるものを考える

## さかしまの世界

福本勝清（明治大学教授）

わずか三年だったが、筆者にはとても長く感じられた三年の留学が終わり、ようやく帰国した頃（一九八四年）、論壇では山口昌男がもっとも輝いていたように思う。七〇年代、吉本隆明とか広松渉などといった新左翼系思想家の文章に馴染んでいた私は、帰国当初、えらく様変わりした雰囲気戸惑うことになった。

それでも、その後数年間は、山口昌男ほか文化人類学者の熱心な読者であった。というのも、中国滞在中でやまほど抱え込んだ疑問、難問をどう解くか、考えあぐねていたからである。もちろん、その多くは結局のところ答えがでず、今も懸案のままであり、

なかには、到底、自分には無理だと投げ出ししてしまったものもある。

中国には、祝祭、シャーマニズム、トリックスター、巡礼、青春期の放縦といった文化装置が欠けている。あるいは、あったとしてもそれほど役割を果していない。前回、こう述べたのだが、それもまた今も抱え込んでいる難問の一つである。いつか、このテーマで何かまとまったものを書いてみよう、分不相応な希望を抱いたはずなのだが、いつこうに問題の核心に近づくことができず、これまで一言もそのことに言及できずにきた。おそらく、今後、まとまったものになることはないだろう。最近、筆者の関心のほとんどは、社会経済史に向けられている。中西功、中国農村社会論、講座派理論、日本資本主義論争などと辿っているうちに、なかなか抜け出せなくなっている。いずれ社会的なものに戻るつもりだが、それでも、残念ながら、文化論を論じるほどの余裕はないだろうと思う。

ここでいう文化装置とは、ある社会の、文化的な価値観や秩序意識といったものを

再生させるものであり、あるいは活性化のための諦（ふるい）のようなものである。日常がどのようなものであれ、日常とは繰り返される毎日であり、どのような社会であれ、そこでの日常はマンネリ化された無為の日々のように映ってみえる。

支配的な価値観も、秩序意識も、実のところ、それが盤石の重みをもって人民にのしかかっていることが、その安定ぶりを示すことになる。などというわけではない。多分、圧倒的な重たさ、専制的な振る舞いなどというものには、どこか嘔吐感、不安定さを指し示すものでしかないだろうし、一度カリスマ性が失われれば、その権威は失墜する。安定した価値観や秩序意識とは、そのような専制的な振る舞いと対極にある、世襲的で且つ老獪に振る舞うものだろう。

議論は再び、マンネリ化した日常に戻る。世襲的なもの、長老政治、老獪さなどといったものには、昨今うんざりさせられどおしだが、カリスマ的な革新もまたいつこうに埒があかないとしたら、ほかにどんな手立てがあるのだろうか。いま我々が悩ん

でいるように、人類の歴史もその悩みに答えるべく試行錯誤を繰り返してきたのだろう。システムのいたずらなのか、理性の巧緻なのかどうかわからないが、そのような日常を活性化させる文化装置が育まれることになる。

時間を限って、その時だけ日頃の価値観や秩序を思い切ってひっくりかえすことによつて、我々の日常に積もりつもつた塵や澱(おり)のようなものを、一挙に掃き棄てる。一年に一度、もしくは数年に一度それを行なうものとして祝祭(カーニバル)があり、一生に一度もしくは数度行なうものとして巡礼があるだろうし、青春期の放縱は一生のうちある特定の年代にだけそれを認めるものであると考えることができる。

また、ある特定の集団、とくにマジジナルな階層や身分に属する人々、あるいはある特定の気質のものに、そのような秩序の攪乱者の役回りを認めるものとして、シャーマニズムやトリックスターがあるだろうし、また青春期の放縱にも、そのような傾向がある。

時間を限つての、あるいは社会の一部の者に限つての、そのような支配的な価値観や秩序意識への揺さぶりは、単なる息抜き、一時のカンフル剤にすぎず、結局のところ、既成の権力構造を延命させるだけの安全弁にすぎないという見方もあろう。だが、単なる息抜きやカンフル剤を越えただけか得体の知れないもの、危うさがあつたからこそ、これらのものは延々、続けられることになつたのだろう。正体の見えない不思議な力や危うさは、繰り返される日常とはまったく別のものを与え、人々に生き直しの感覚を与えることになつたからである。

このような日常に積もる塵や澱をエントロピーと呼び、それに揺さぶりをかける文化装置をエントロピー低減装置と呼ぶ人もいたようである。だが、物理学、熱力学などにいうエントロピーとは、同一系内においては、増えることはあつても、けつして減らないものである以上、エントロピー低減装置は比喩としてつたないものであつたように思う。

どの社会、どの文化にもそのような優れた文化装置が埋め込まれている、筆者にはそう思えた。だが、中国で見たもの、感じたものは、およそそれとは一致するものではなかつた。祝祭、シャーマニズム、トリックスター、巡礼、青春期の放縱などが、中国にまつたくなというわけではない。しかし、その役割、意味合いはひどく低いもの、薄いものと言わざるをえない。もちろん、筆者が滞在した八〇年代前半の社会について言えるばかりでなく、伝統中国の社会と文化についても同様である。

中国の祭と日本の祭の違いについて、周作人は、日本の祭の神懸かりぶりを指摘し、その異様さに注意を促している。民俗学の理解者であつたはずの周作人は、日本の祭に見られる神懸かりぶりを気味悪く思つていたらしい。神懸かりに対する周作人の戸惑いは、柳田国男を学んだとはいへ、彼もやはり孔子の徒であつたということなのかもしれない。あるいは、戦前の日本が集団的な神懸かり状態に陥り、かつ神懸かりした英雄たちによつて事態が出口なき方向へと引きずられていく情況に、いっそうの不

安を覚えていたからかも知れない。

周作人によれば、村祭が昂揚するに従い、神輿のかつぎ手などが神人和融の状態に陥ると述べ、それに比べ、中国の祭（祭神迎会）はきわめて散文的なものであり、それは中国の民衆の神明に対する態度が、「礼にあまつて情に欠ける」からだという。

「これを要するに中国人民は鬼神をあたかも役人であるかのようにもてなすのである。盛大に送り迎えして恭敬を尽くすだけ尽くせば、あとはさばさばと何のかかわりもなくなってしまう。したがって祭礼の行事も一種の贈答品にすぎぬことになり、他の国の宗教儀式とはけだしよほど異なるもののようにだ（周作人「祭礼について」『日本文化を語る』）。

だが、実のところ、神人交融にまで昂ぶるような祭が、どんちゃん騒ぎや無礼講を含むこと、厳肅さや秩序の再生ばかりでなく、秩序の破壊、乱痴気騒ぎが必ずセットになっていること、それが祝祭の本質的なあり方なのである。秩序の破壊、乱痴気騒ぎは、時として騒然とした、かつ神をも畏れ

ぬ 神の祭にまで行きつくこともある（たとえば中世後期、ヨーロッパ各都市で行われたロバの祭）。礼にあまつて情に欠けるような信仰心からは、乱痴気騒ぎや 神の祭を産み落とすエネルギーが湧かないのだらう、そう考えるほかはない。

祝祭にみられる神懸かりは、当然シャーマニズムへとつながる。シャーマニズムが神と人の直接的なコミュニケーションであり、たとえ既成のヒエラルヒーでは、末端に位置づけられていようと、つまり身分がどうであれ、財産がどうであれ、ひとたび神がその人の身体を借り、言葉を発すれば、彼または彼女は神にもっとも近き人もしくは神そのものになる。神の降臨は、神の僕たちのヒエラルヒーを破壊し、既存の体制を一挙に覆すことになる。

とはいえ、神々の体系は、そのようなシャーマニズムを飼い馴らし、改めてそのヒエラルヒーのなかに組み込むことに成功している。とはいえ、そうであつても、新たな神の降臨があるかぎり、既存のヒエラルヒーの動揺はさげられない。

中国のシャーマニズムは儒教や道教の大伝統の前では、単なる日陰ものにすぎない。どんなに多くの神降しが行われていたとしても、それは占いや呪いの類であり、多くの民衆がそれに従っていたとしても、迷信としてしか扱われない。日本におけるシャーマニズムは日本人の固有信仰である。

我々は、卑弥呼がよきシャーマンであったことを疑わないし、その後の王や帝が、シャーマンであつても、その姉や妹がシャーマンであつても、少しも不思議に思わないだらう。

吉本隆明の国家論は「卑弥呼と男弟」に象徴される。卑弥呼が体現しているのは宗教的・政治的権力であり、男弟が担っているのは経済的・社会的権力である。国家と権力を宗教的・政治的なるものと経済的・社会的なるもの二重性において捉えるのが吉本国家論であった。日本では集団のナンバー1は飾りであり、実質的な力はナンバー2、ナンバー3が持つことが多いが、それも、この権力の二重性がよく説明してくれるはずである。（続く）

## 人民元切下げ騒動と

## 『日本経済新聞』のDVDROM

七月末の東京は猛暑が続き、ビールの売り上げが伸びたと思われる。当方は八月に北京で開かれるシンポジウムにお招きを受けたので、その発表論文の執筆に翻弄され、疲労困憊である。論文を書くのは商売だから、それに苦情をいうつもりはない。その材料についての苦言である。

『日本経済新聞』は近年の新聞記事を、その姉妹紙(『産業新聞』など)を含めてDVD ROMの形で売り出している。勤務先の共同研究室に備えたので、「人民元切下げ」騒動について、これをいかに煽り、世論をミスリードしたかを検証しようと思いついた。そこでこの新聞のダメさ加減を再

確認するハメに陥った。

端的に言つて、実に使いにくい。これでは電子情報としての利用価値を減殺し、結局のところ『縮刷版』にも劣ることになる。「人民元切り下げ」のキーワードをいれると、検索結果が現れ、これはプリントアウトすることはできるが、ダウンロードはできない。これらの記事を開いて読み始める。三つ目の記事までは開けるが、四つ目を開こうとすると、「お断り」のサインが出る。そこでせっかく検索したものを閉じて、さらに『日本経済新聞』ROMを閉じる。ここで改めてROMを開き、検索を行い、記事三つをダウンロードし、閉じて、また開く、結んで開いて」の幼児の遊びがあるまいに、これを三、四回繰り返すと、いかげんに阿呆らしくなり、もう放り出すのが普通の人々の忍耐力ではないか。

なぜこんな馬鹿馬鹿しいことを繰り返させるのか。

著作権保護のため、違法コピーを防ぐためという答えが直に想定される。それは大事な事柄であり、私有物の権利を保護する

ことを否定するつもりはない。

だが、カギというものは、あまりにも複雑すぎて、その結果、その知的所有物を使うとする者が使うのを断念させるほどに複雑なのは明らかに行き過ぎである。『電子版』編集の意味を『縮刷版』編集とまったく同じ次元で想定していることが問題なのだ。否、『縮刷版』よりも後退していることが問題なのだ。『縮刷版』なら、月ごとにとめられているので一二月をめぐれば一年分の記事索引を調べ、内容を調べられる。『電子版』は、検索だけのもっと広範にできるが、その調査対象の拡大とはまさに何千倍、何万倍も反比例して記事内容から遠ざけられるわけだ。これが退歩でなくて何であらう。

他方、真に違法コピーをやるうとする知能犯にとつては、この程度のカギ破りは朝飯前なのではないか。一つハッカー・クラブあたりを依頼してカギ破りを依頼してみようかしら。これはむろん冗談だが、真の泥棒にはまるで無策であり、まじめなユーザーにとつて不便極まるカギなぞは、賢明

な力ギとはいいいにくい。つまりは何をどこまで守るのか、そこをまじめに考えずにいたずらに力ギを増やした話に似ている。最後の力ギをしまった箱の力ギを忘れて、どうにも身動きのつかない寓話に似ている。

ここで想起したが、最初期の『岩波広辞苑』もひどかった。その後、どこまで改善されたか知らないけれど、当時の電子版は重さが少し軽くなった以上のメリットはなかった。これは「著作権保護のため」というよりは、「利用者無視」の一語に尽きる。

このような新聞・出版社が社会の公器をうたい、報道・出版の自由などと語るのには、笑止千万である。私はレスター・ブラウンの中国食糧危機についての報道や人民元切下げ報道をめぐる日本のいわゆる大新聞のオオカミ少年ぶりの証拠を検索しようとしたのだが、あまりにもばかばかしいので、もうやめた。

そこで思い当たり、村田忠禧データベースに救いを求めた。早速届いたものを少し整理したのが、以下の再録である。

題して、『朝日新聞』に踊る人民元切下げ

の妖怪（一九九八年六月～一九九九年九月、村田忠禧教授の検索によるもの）

一つ一つコメントする紙幅はないので、キーワードに傍線を付けるだけにとどめる。オウム真理教のマントラか何か知らないが、このように終始一貫して「切下げ力」「切下げ懸念」をたたきこまれると、普通の読者はそのように思考を誤導されるのではないか。もっとも最近の若者の新聞離れは、甚だしいので思考誤導されているのは自称インテリだけでもしれない。（以下の数字は年月日）

\*

980609:アジア通貨の下落に拍車をかけ、中国人民元の切り下げをも招きかねない。

980920:人民元・香港ドル、市場の下げ圧力が増す、「国際公約」に揺さぶり、「香港一日＝永持裕紀」

980617:アジア金融危機の中で、人為的「安定」を保っている中国の人民元について、中国がいずれ切り下げに動くのではないかと懸念が世界の通貨・金融市場で急速に強まっている。

980617:中国はメンツにかけても年内は

元を切り下げない」との見方が北京の経済関係者の間にある。今月下旬にはクリントン米大統領が訪中、来月一日は香港返還一周年行事もある。香港ドルを防衛するためにも、人民元切り下げは決断できない、という解釈だ。

980911:人民元切り下げへのシナリオとしては、中国の貿易黒字が急速にしばみ、外資導入も急減して、国際収支の悪化が表面化する。日米が円安の進行をそのまま放置する。クリントン米大統領訪中、香港返還一周年記念式典後に、中国政府が態度を変える、などが考えられる。

980917:人民元切り下げを「ドラゴンショック」と呼んで恐れる香港の市場関係者も出てきた。

980917:急速な円安が、人民元の切り下げに結びついたら、東南アジアは、再び通貨切り下げ競争に巻き込まれ、すでにマイナスイ成長になった各国経済をさらに冷え込ませることになる。

980611:アジア通貨・金融危機は、九四年の人民元切り下げがきっかけだった。切り下げで競争力を増した中国製品が市場を席巻し、東南アジア各国の輸出減をもたらし、パブル経済の崩壊とあいまって、通貨切り下げを余儀なくされた。元が再び切り下げ

られれば、その悪夢が再現するばかりでなく、アジアと世界経済への打撃は一段と激しいものになる。

980619: 急激な円安の進行が中国の人民元の切り下げを引き起こし、アジア発の経済混乱が再発することへの危機感が背景にある。

980616: 仮に中国が切り下げに踏み切れれば、アジア通貨の下落に歯止めがかからなくなるとの懸念が急速に広がっていた。

980619: 円売りを放置しては、中国の人民元の切り下げをまねき、疲弊しているアジア経済をさらに混乱させる。米国の株式市場も不安定な値動きを見せ、日本が世界恐慌の震源になりかねない。

980621: 人民元の切り下げ懸念が高まるなか、中国が「人民元の安定維持」を表明したことについて、声明は「地域の金融市場の安定に重要な貢献となる」と評価した。日本が国際的に公約した経済改革が進展しなければ、人民元切り下げ問題が再び浮上する危険性もある。

980621: 円安はアジアの輸出拡大を阻み、人民元を含めて通貨の切り下げ競争を招きかねない。

980623: 香港株が人民元の切り下げ観測に揺さぶられたように、中国と寄り添う

「一国」の印象が、次第に色濃くなってきた。(香港「永持裕紀」坂尻信義)

980625: 中国は人民元切り下げというカードをちらつかせて、米国を円安是正の協調介入に踏み切らせるなど、米中の協調姿勢を大きくアピールした。

980704: 日本経済の再建が果たせなければ、中国の人民元切り下げで通貨危機の第二波は不可避だとの強い懸念を示した。

980808: 七日のニューヨーク外国為替市場は中国の人民元切り下げに対する懸念や香港経済への不安を背景に円安ドル高が進み、前日夕よりちょうど二円安の「ドル」一四六円二五銭をつけた。香港のメディアは同日、人民元のやみレートが上海で「ドル」九・三元をつけた(東方日報)など、中国内の元売りの勢いを一斉に報じ、人民元の切り下げ観測の高まりも香港株売りに拍車をかけた。

980809: 今回の香港ドル売りの特徴は、メディアや市場で、中国国内で人民元のやみレートが急落していると騒がれたことだ。一米ドル「約八・二元の公定レートに対し、九元を突破した」との報道さえあり、人民元の切り下げ観測の再燃から通貨や株売りに拍車がかかった。

980809: 香港紙サウスチャイナモーニングポストは八日、中国首脳が毎年夏に河北省の避暑地、北戴河で開催する会議で、今年には人民元の切り下げ問題が討議されるとの見通しを伝えた。「切り下げはしない」という方針を堅持している朱鎔基首相に対し、国内各層から切り下げの要望が強まっているためといわれ、会議では円相場の変動についても話し合われるとしている。

980811: 元切り下げ懸念再び 中国成長鈍化の兆し、円安進み市場動揺【香港一〇日「永持裕紀」】中国通貨の人民元切り下げへの懸念が再燃し、世界の金融市場が揺れている。

980811: 六月に続き再び顕在化した人民元に対する切り下げの懸念の出発点は、今回も円安だ。

980812: 市場では、中国の経済成長の減速感が強まるなかでの円安の進行で、中国・人民元の切り下げ観測も根強く、これがアジア各国通貨の連鎖安を招く形で、円安にはね返るとの見方も広まっている。

980812: 八年ぶりの円安が中国通貨の人民元の切り下げを促すことになれば、アジア諸国の経済回復がさらに遅れ、世界経済の混乱につながりかねないとの懸念が根強い。

80812:【香港一日＝永持裕紀】一日の香港株式市場は、円安の進行や人民元切り下げ懸念から売りが集中し、指標のハンセン指数の終値は前日比約二五四ポイント安の六七九・九五と、終値ヘースで約五年ぶりに七〇〇の大台を割り込んだ。

80818:「一日は休場だった香港市場が下げると、中国・人民元の切り下げを連想させる」だけに、中国を巻き込んでアジアの通貨・株式市場が急落、それが欧米に連鎖する最悪のシナリオが進む可能性もありそう。

80818:ロシアの対外債務支払いの九〇日間繰り延べやルーブルの切り下げで、中国・人民元の切り下げ観測がいつそう強まり、アジア各国の通貨安に跳ね返るとの懸念が広がっている。

80818:中国・人民元や香港ドルの不安定化を通じて、アジア通貨安を巻き込んだ形で、「円安が加速することも考えられる」という。

80818:この通貨危機の背景には、国際石油価格の下落とともに、円安によるアジア経済危機の進行があった。ロシアの危機は、対口投資額の多いドイツのマルク相場などに影響しかなない。アジアでは、中国・人民元切り下げの観測も強い。米欧やアジ

アの金融市場に危機が連鎖する恐れもある。

80822:確かに、香港のペッグ制がいま崩壊すれば、中国の人民元の切り下げを誘いがねない。

80823:「八％の成長目標は「保八（八％を守れ）」という言葉が生まれたほど、今年中国経済にとつて大きな数値となったが、一月、九月の実質成長率が七・二％にとどまり、実現は困難と見られていた。七％台後半を確保し、中国政府は何とか面目を保った形だが、急成長の陰りがはっきりしたことで、来年も内外の人民元切り下げ圧力など、引き続き厳しい環境にさらされることになりそう。

80826:【香港二五日＝永持裕紀】二五日の香港株式市場は、中国の英字紙チャイナ・デーリーが二四日、「人民元の切り下げもまったく悪いものではないがもししならない、アジアの通貨切り下げの引き金にはならないだろう」というアナリストの見方を紹介したのをきっかけに、売り注文が殺到した。指標のハンセン指数は一時、先週末終値比四〇〇ポイント以上急落し、終値も同二九九ポイント安だった。

80826:同紙の編集方針は北京の中国当局の意向に沿ったもの。中国指導部はこれ

まで「人民元切り下げず」という公約を続けている。「方針転換の観測気球かと、午前中はパニック的な投げ売りも見られた」（地の海悦証券）という。

80826:チャイナ・デーリーが前日、「人民元の切り下げは悪いことではない」と報じたことから、この日の台湾各紙は「中国メディアが初めて切り下げ容認発言」と一斉に取り上げ、不安を広げた。李登輝総統は一日の国民党投資事業シンポジウムで、「第三の金融危機は人民元から引き起こされる」と警告、大陸投資に慎重を期すよう要請していた。

80826:東南アジア各国の株式市場は二五日、中国人民元の切り下げ観測が広がったことを嫌気して、軒並み下落した。

80829:アジア地域で最大の下落幅を記録したシンガポール市場は個人投資家の資金流入を受け、ストレーツ・タイムズ指数は今年に入って一時、一五〇〇ポイント台に乗っていたが、人民元切り下げ観測に加えて、利益の確定売りがふくらみ、約一年ぶりの大幅下落となった。

80829:広東国際信託投資公司（GITIC）の破たん処理で、対外債務を優先返済しない方針が打ち出され、金融不安も台頭している。人民元の切り下げ観測など、

中国経済全体に対する先行き不安感もある。

990410: 中国経済に不安説再び 人民元切り下げの懸念

990410: WTO加盟の交渉の軸が、金融部門に移ることもあって、米国内では、経済の先行き不安と人民元の切り下げを結びつける見方が再び浮上してきた。

990410: 国際経済研究所のゴールドステイン上級研究員は、「中国政府は財政出動や低金利政策で景気を支えてきたが、今後はそれも難しい。金融緩和を進めると人民元の切り下げ圧力を強める」と心配する。

990606: 中国の人民元切り下げ、米国の株価急落、日本の景気回復の腰折れを挙げたおり、「もしこの三方国のどこかで深刻な事態になれば、アジア太平洋地域の経済に与える打撃は大きい」としている。

990620: 中国が再び輸出ドライブをかける「やがて人民元切り下げにつながる」という心配が始めている。

990603: 人民元の切り下げ観測が強まり、「人民元切り下げは、特にタイの輸出力をそぎ、バツ安を招く」との見方が広がっているためだ。